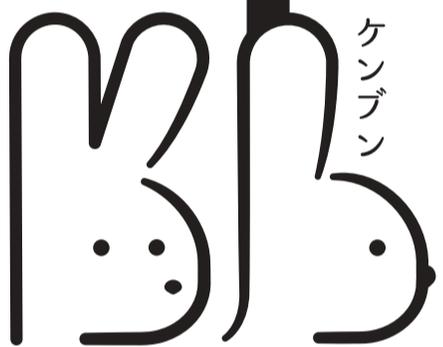


KENBUN JOURNAL

新しいケンブン



ケンブン

New Culture, New Experience

愛媛県県民文化会館

EVENT

2025.3.14

quiet music revue

歌とギターとピアノで紡ぐ、三人演奏会



おおはた雄一

坂本美雨

原田郁子 (クラムボン)

COVER



KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

愛媛県県民文化会館、略して「ケンブン」から

ケンブンを楽しむための情報をお届け!

vol.005
2025



アンケートにご協力ください

ケンブンジャーナル編集部 kenbun_journal@ecf.or.jp



よりよい紙面づくりを目指するため、左記の2次元コードから、ご意見・ご感想をお寄せください。
【個人情報は第三者への開示のために使用しません。また、お寄せいただいたご意見は愛媛県県民文化会館のホームページや
発行物などに匿名で掲載させていただくことがあります。ご本人の承諾のない限り、前述の目的以外に使用、第三者に提供することはありません。】

えひめ文化振興コンソーシアム

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL 089-923-5111
<https://www.kenbun.jp/>

TAKE FREE



ARTIST
INTERVIEW

「一番大切な
自分だけの言葉を
伝える場所」

イツセー
尾形

EHIME CULTURE

広報・たぬ子の

ゆかりアーティスト

interview

KENBUN COLUMN

ケンブンケンガク

エヒメ文化を語る

ケンブン人のお仕事

県文と私

ケンブン周辺見学



アーティストインタビュー

FEATURE

一番大切な自分だけの言葉を伝える場所

—— イッセー尾形

PROFILE

1952年生まれ、福岡県出身。日本における一人芝居の第一人者と称され、舞台をはじめ映画、ドラマ、ラジオ、ナレーション、CMなど幅広く活動。2016年に映画『Silence-沈黙』で第42回ロサンゼルス映画批評家協会賞 助演男優賞次点入賞。

Q.1 えがお審査委員長を務めてらっしゃる「愛顔感動ものがたり」が11年目を迎えました。心境はいかがですか。

中村時広県知事、作家の故新井満さんが立ち上げたこの企画は、基本はヒューマンイズムだと思うんですね。お話をいただいたときは審査委員長なんて務まるかどうかと思いましたが、内容を聞いているとどんどん焦点が合ってきて、気持ちが高まっていきました。テレビをつけると殺伐としたニュースが多いなか、この「愛顔感動ものがたり」がもっと広まるといいな。その思いは強くなる一方ですね。

Q.2 さまざまな“ものがたり”にふれてきたなかで、心を動かされたのは？

やっぱり人が迎える試練と言いますか。肉親がいなくなる、あるいは自分の体の具合が悪くなる、精神を病んでしまうなど。そのような試練の克服に人が手を貸してくれたり、自分がそれを受け入れて克服したりと、人間同士の関わりが力強く後押ししてプラスが必ずやってくるということに感激します。我が身に起こったこと、人の身に起こったこと、皆さん正直に書かれていますから、そこに作為はないんですね。作為があると技術になっていくし、プロの文章書きになるのですが、「愛顔感動ものがたり」はそこが違うところ。新井さんと中村知事が「オリジナルの“ものがたり”を書いてもらおう」と最初に決めただけです。それは正解だなと思いますね。

Q.3 愛媛の印象はいかがですか。

今は亡き天野祐吉さん(元松山市立子規記念博物館名誉館長)に誘われて、子規博で一人芝居をしました。それが初めての愛媛。お城があって、お堀があって、路面電車が走っていて、東京とはまったく違う風景で「ああ、いいな〜」と思ったのが第一印象です。そして、俳句など言葉のレベルがすごく高いところですよ。私は一人芝居を長くやっていますが、セリフをつくるとき

に言葉で自分を喚起して、お客さんを喚起する。その言葉を探してウン十年ですから、そういう意味で、愛媛に惹かれるものがあるのでしょうね。太い脈々とした幹として「言葉」っていうのがあると思うんです。いろいろな人が、俳句から枝分かれしたいろいろな言葉の仕事に携わっているとありますが、私もその一員になりたい、みたいなところがあります。

Q.4 最後にメッセージをお願いします。

当日お越しになる方は、発表を見守ってほしいです。人間の一番大事なものを伝える場に立ち会っているのですから、「見る」「聞く」という思いを強くしていただきたいですね。そして今後“ものがたり”を書く方は、ある意味、記憶をたどると思うんですね。こんなことやあんなことがあったな、という自分の人生の記憶をたどる旅。それを丁寧にしてほしいと思います。そうすると、あなたにしかつくれない言葉が必ず生まれてきます。ですから、自分ならではの言葉を信じてほしい。自分が面白い言葉をつくったんだ、発見したんだという“ものがたり”に懸けてほしいですね。

INFORMATION



愛顔感動ものがたり表彰式イベント
2月23日(日・祝) 14:00~(開場13:30)
@メインホール

愛媛県が募集した「愛顔」にちなんだエピソード、写真、映像の入賞作品を発表。紺野美沙子さんからゲストによるエピソードの朗読などが行われる。令和6年度は47都道府県と海外2か国から9,897作品が寄せられた。

問/089-947-5480(愛媛県文化振興課)
※事前申し込みが必要

EHIME CULTURE

伝統文化からサブカルチャーまで愛媛にゆかりのあるアーティストに広報のため子がインタビュー

【松山市出身初】
今秋・真打昇進!

ARTIST

落語家 入船亭遊京 さん

松山市出身。2010年10月入船亭扇遊に入門、同年12月「ゆう京」と名づけられる。2015年11月二ツ目に昇進し「遊京」と改名。2025年秋、入船亭扇白として真打昇進予定。



2025年秋、真打に昇進する入船亭遊京さん。彼が落語と出会ったのは、中学生のとき。落語のCDやカセットテープを聴くうちに、漠然と「噺家になりたい」と思うようになった。さまざまな寄席で噺を聴くなかで入船亭扇遊に惹かれ、大学卒業間近に弟子入りを志願し入門。入門後は寄席で休みなく働き、師匠方に教えてもらう日々のなかで経験した初高座は、今でも忘れられない。そんな思い出のある寄席で「トリを飾る」ということは、大きな夢であり「2025年秋、自分は何を演じるのだろうか」と、その時を心待ちにしている。出身者として、愛媛にゆかりのある偉人や出来事を落語にするなど「さまざまな方に寄席や公演会へ来ていただける努力をしていきたい」と、今後の目標を話してくれた。

聞くん、
見るけん、
ため子が
KENBUN
AREMOBUNKA
KOREMOBUNKA

ゆかりアーティスト
interview

vol.5

もっと読みたい方は
こちら▶



愛媛の芸術・文化 広報・ため子

「自分を取り巻く環境を変えたい」と、大阪から移住し今治市大島にアトリエをかまえた中田克郎さん。子どもの頃からものづくりが好きな彼は、「勉強をするより、ものづくりに進みたい」と美大に進学し、靴メーカーへ就職。企画部でパタンナーとして働くうちに、全工程を自分で担いたいと考えるように。退職し、西成製靴塾で製靴技術を教わった。手製靴は手間のかかる作業が多いが、手間を排除すると、工場製造と変わらず“安く大量に”というものづくりに行きついでしまうため、製靴塾で教わった工程や技術をほぼ変えず制作している。受注生産のためアトリエに並ぶ靴はサンプルではあるが、手製靴を手にとって大量生産された靴との違いを実感してほしい。

戦後の製靴技術を
後世へ伝えたい

ARTIST

靴職人 製靴 暁・中田克郎さん

今治市出身。靴メーカーに就職し約20年勤務。退職後、西成製靴塾で当時82歳の靴職人から戦後の製靴技術を学ぶ。今治市大島に移住し、2015年に手製靴の製靴暁を開業。



KENBUN KENGAKU

ケンブンのケンガク

知らない人も多い(かもしれない)けど、ケンブンって実は名建築。建物のトリビアから普段、見ることができない裏側まで紹介

THEME [Let's Go! “奈落の底”]



01



02



03



04

01_メインホールの奈落。迫りで降りると、約90秒で降りられる 02_舞台上で使われる道具などはここから搬入できる
03-04_「ケンブン親子探検ツアー」の様子。メインホールの迫りは1回につき最大荷重2トンまで昇降できる

ケンブンの「奈落(ならく)」とは、“どん底”という意味ではない。いや、ある意味合っているのか。舞台の床下にある空間のこと。確かに“底”である。ケンブンにはメインホールとサブホールに奈落が設けられており、どちらも深さは11.6m。3階建ビルくらいの高さ(深さ)で、舞台上に必要な道具などの置き場や演者の通路として使われる。奈落には「迫(せ)り」と呼ばれる昇降舞台が取り付けられ、それが上下に動く仕組み。メインホールに2基(中央と後方)にあるので「前迫り」「後ろ迫り」と呼ばれる)、サブホールに2基(大きさが異なるので「大迫り」「小迫り」と呼ばれる)。さらにメインホールには横に動く「スライディングステージ」もあり、上下左右の動きが可能なので演出の自由度が高まり、コンサートや演劇、オペラなど幅広く対応できるのだ。2024年に開催した「ケンブン親子探検ツアー」では、奈落の見学が特に好評だったとか。次のツアーの機会に、キミも体験してみない?

賃貸契約更新が難しく、また代替場所を模索しましたが叶わず、2024年の8月末でシアターねこは閉館を公表しました。それに関わらず地元劇団はシアターねこのために随時寄付を募ったり、県外劇団は駆け込みで公演企画を持ち込んだり、唯々感謝しかありません。9月から10月にかけては、照明機材、音響機材の処分、舞台や客席の原状復帰と続き、10月31日には大家さんに返却することができました。これからの私は「NPO法人シアターネットワークえひめ」として、愛媛県の文化芸術振興の一助を担っていきたく思います。



シアターねこ 鈴木美恵子さん

シアターねこ代表、NPO法人シアターネットワークえひめ理事。松山に表現の場を提供し、松山の演劇に関わる場所をつくりたいと活動。



海外では一般的だが、日本のアーティストも最近では曲やゾーンを限定してだったりして、いつでも撮影OKのライブが増えてきた。私は不器用ゆえ撮影しながらライブを観るといのが不可能なので、撮ったことはないのだけれど、勝手な印象だが、撮影している人はライブを画面を通して見ているのかな?と思うくらいずっと撮影しているし、撮らない人は全然撮らないような。ただ正直撮影している方の画面の照度が気になって、気付くとステージではなく、その方の画面を凝視していることもある(笑)。みなさんは携帯に残す派? それとも記憶に残す派?



5曲目
「THEME」
ライブの思い出を
どこに残すか

エディター・ライター 渡邊麻子さん

愛媛在住20年目。年間のライブ参戦数は平均70本~90本程度。音楽的にはとにかく雑食なので、好きなジャンルを聞かれると困ります。



終演後のステージを撮影することは時々ある(でもこれもNGの場合もあるヨ)

時には轍を辿ったり、描いたり。

その⑤【THEME】酸いも甘いも飲み分けて。

たまに早起きすると、散歩がてら喫茶店まで足を伸ばしてモーニングでも食べに行こうかーなんてことになる。松山でも最近はフルーティな酸味を活かした浅煎り珈琲を売りにするカフェが増えてきたけれど、老舗の店でトーストと一緒に供されるのは深煎りって決まっている。何故かって? 松山は甘い味噌汁にスパゲッティやラーメン、焼肉なんなのもある。そう、この街で甘さは正義。そんな甘くて濃い味付けの食後に口にしたいくなるのはパンチの効いた深煎りの珈琲ってこと。つくづく食は文化だよなあ。ぼく? ぼくはどちらも好きです(笑)。

本の轍 越智政尚さん
春日町にて小さな本屋「本の轍」を営む。暮らしとアートに特化した古書、新刊、雑誌などを取り扱う。イベントや展示も行い、文化の発信の場となっている。



ケンブンのお仕事

KENBUNJIN NO OSHIGOTO

ケンブンで働く人の現場に潜入!



真珠の間や各会議室の音響・照明のテストを行います!



一般管理
高岡美幸さん

昨年度までカウンター業務に就いていた高岡さん。今年度から貸館管理をしながら、後輩たちのサポート役も担っている。そんな高岡さんの頭のなかには施設の仕様はもちろん、細かな備品管理まですべて入っているそう。「コロナ禍で休業状態のとき、自分にできることを...と思って勉強しました」と話す。すべては来館者の満足のため。後に続けと、後輩たちも育っているという。

県文と私

KENBUN TO WATASHI

県文との思い出を語る

by New Sprint ベース macoさん

高校生の頃、吹奏楽部として何度かケンブンのメインホールのステージに立ったことがありました。一度しかない本番の演奏と、広大なホールの4階ぐらいまでいっぱいだったお客さんにプレッシャーを感じていたことが印象に残っています。そんな私が「New Sprint」として、1月19日の「EHIME MUSIC FESTIVAL」のオープニングアクトに出演。またケンブンのステージに立てるとは思っていなかっただけに、本番前のステージ裏で当時の記憶を思い出し、とても感慨深かったです。



県文との思い出募集中

ケンブン周辺見学

KENBUN SURROUNDING TOUR

ケンブン近くの素敵なお店や施設を紹介



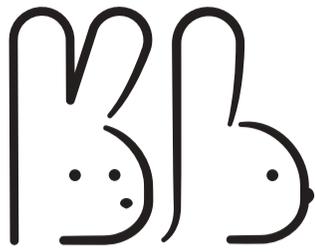
CAFÉ & CANTINE NÔTRE (ノートル)

道後公園の緑を望む「ノートル」は、落ち着いた雰囲気です。ランチやディナーを楽しめるお店。腸詰めから手づくりする自家製ソーセージが人気で、パスタなどイタリアンも味わえる。カウンター席とテーブル席が2つという店主の近さも魅力の一つ。予約して訪れたい。

住/松山市岩崎町2-12-1
パークハイツ野本1F
電/089-948-9603
営/11:30~14:00, 18:00~22:00
休/日・月曜



KENBUN SCHEDULE



ケンブン

2025.2-3

※本文中のデータは2025年1月10日現在のものです。チケットが売り切れの場合があります。また予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

- M メインホール
- S サブホール
- 真 真珠の間
- 県 県民プラザほか

⑤ オペラえひめ第16回定期公演 プッチーニ名曲コンサート「すべては、愛」

2月9日(日)14:30～(一般開場14:00)

プッチーニのオペラより「ジャンニ・スキッキ」「ラ・ボエーム」「トスカ」「蝶々夫人」など珠玉の名曲を、アリア、重唱曲、管弦楽曲、合唱曲のコンサート形式にて上演。

問/080-2587-4947
(オペラえひめ事務局)
¥/一般4,000円、高校生以下2,000円(当日は+500円)



真 池田屋ランドセル展示会

3月30日(日)10:00～16:00

2026年度入学のお子さん向けの「池田屋ランドセル」の最新全モデル・全カラー、100色が勢ぞろい。知識豊富なスタッフがランドセル選びをサポートしてくれる。

問/0120-15-8983(池田屋)
¥/入場無料 ※入場予約制



⑤ 滞空時間 new soundscape

3月2日(日)18:00～(開場17:30)

演奏と映像によるコンテンツリアート。ロックフェスからアートイベントまで、国内外で評価の高いバンドによる映画を見るかのような新しい音楽を体験できる。マルシェ、真珠の間ではDJイベントも開催。

問/089-945-1139
(株式会社エス・ピー・シー) ¥/一般3,500円、席なし幼児無料



真 えひめ障がい者雇用マッチングフェスタ

2月20日(木)10:00～16:00(受付開始9:30)

「障がい者を雇用したい企業」と「就職を目指している障がい者」をつなぐマッチングイベント。

問/089-923-5002(マッチングフェスタ受付事務局)
ぶうしすてむ/担当:川崎・佐藤)
¥/入場無料

真 全世代対象合同説明会 オープン・カンパニー in Ehime

2月27日(木)13:00～17:00

愛媛で働きたい学生と愛媛の企業をつなぐ合同説明会。就活応援セミナー「自分らしい企業の見つけ方」(12:30～13:00)、面接対策講座(17:00～17:30)にも参加しよう。

問/089-931-6007(株式会社エス・ピー・シー) ¥/入場無料



M 日中友好記念作品 舞劇Dance Drama「朱鷺」

2月28日(金)18:30～(開場18:00)

日中友好の象徴「トキ」をモチーフとした舞劇、待望の再来日公演。西洋のバレエや中国舞踊、コンテンポラリーダンスなどあらゆる表現を取り入れた、幻想的な舞が繰り広げられる。

問/087-822-9210(MIN-ON四国)
¥/A席10,000円、B席9,000円 ※全席指定



真 KENBUN MORNING MARKET

[vol.3]2月23日(日・祝)9:00～

毎回テーマを変えて行う朝市。食や雑貨など、健康や自然由来のものにこだわる店舗・作家が出店。Vol.3のテーマは「珈琲とチョコレート」。



問/089-945-1139(株式会社 エス・ピー・シー)
¥/入場無料



⑤ quiet music revue 歌とギターとピアノで紡ぐ、三人演奏会

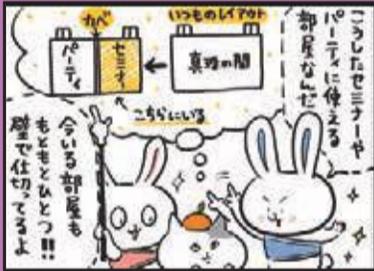
3月1日(土)18:00～(開場17:30)

おおはた雄一、坂本美雨、原田郁子(クラムボン)によるアコースティック演奏会。歌とギター、歌とピアノとシンプルな編成により音像を浮かび上がらせる。静けさと温もりが共存する、ここでしか味わえないライブ体験をどうぞ。チケットはe+(イープラス)で販売中。マルシェ、真珠の間では「愛媛カレーフェス」やDJイベントも開催。カレーフェスには県内のカレー屋さん9店舗が参加予定。

問/089-945-1139(株式会社エス・ピー・シー) ¥/一般3,500円、席なし幼児無料

PICKUP

県文見聞録 vol.5



人の話は聞きましょう



イラストレーター misato

松山市在住。クソツツと笑えるキャラやイラストが得意。似顔絵グッズや企業キャラデザイン等も。



1月30日販売開始! 伊予銀行 presents
原田慶太楼×HIMARI×読売日本交響楽団

今年3月にベルリン・フィル定期デビュー予定で、今世界が注目する13歳のヴァイオリニストHIMARIと国内外で絶賛される気鋭の名指揮者、原田慶太楼が共演! チケットは各種プレイガイド他、ケンブン2階・第2事務室でも販売(平日9～17時、発売日は10時～)※対面販売のみ。

伊予銀行 presents 読売日本交響楽団 愛媛公演2025
6月7日(土)14:00～(開場13:15) 問/089-927-4777(公益財団法人愛媛県文化振興財団) ¥/SS席8,000円、S席6,500円、A席5,500円
※席によってはすでに売切れの場合あり ※未就学児の入場は不可

チケット販売のお知らせ



LOOK FOR

RESTAURANT INFORMATION



レストランのお知らせ

「真珠の間」での宴会・懇親会もおまかせ!

県内最大級のバンケットホール「真珠の間」では、着座で最大600名の宴会も対応可能。料理はビュッフェ形式や卓盛り形式が選べ、フリードリンクとのお得なセット価格もあり。ステージや音響、照明などの設備も完備しているので、式典やパーティの懇親会にも◎。

※1階レストラン「TSUNAGU」の営業日はケンブンHPまたはインスタ(@cafe_dining_tsunagu)でチェック

KENBUN JOURNAL

New Culture, New Experience

2025 vol.005

企画・発行: えひめ文化振興コンソーシアム

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5-1 TEL 089-923-5111
<https://www.kenbun.jp/>

ケンブンジャーナル編集部: 愛媛県県民文化会館内 企画・編集: 藤崎純子・河内春香・植村郁香・河野英一郎(以上えひめ文化振興コンソーシアム)、松下亮介・和氣敬憲・高須美登里・池川ゆかり デザイン: 林真央・土居麻巴香・西田衣織(以上エス・ピー・シー) 印刷: セキ株式会社 2025年1月24日発行/※掲載データにつきましては、2025年1月10日現在のものです。情報の内容は変更される場合があります。本紙記事、写真等の無断複写、及び転載を禁じます。



Next Issue

2025年3月発行